



さぶろく

昭和36年6月、伊那谷を襲った梅雨前線豪雨による災害「三六災害」から50年の月日が経ちました。大鹿村でも、大西山の大崩落や鹿塩地区の土石流など未曾有の被害を受けました。この大きな節目を迎えた今日、この災害の実態を再認識するとともに、教訓として後世に継承し、水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指した様々なイベントが各所で開催されています。

今月のくろゆり通信では、5月に行われたいくつかのイベントと、中学生による「職場体験」の様子をご紹介します。



植樹祭



5月20日(金)大西公園において、大鹿村主催の“植樹祭”が開催されました。

大鹿村では毎年“育林祭”として森林の手入れをしてきましたが、三六災害から50年の節目にあたる今年は、この大西公園が緑豊かな愛される公園となる事を祈念し、多くの方によって植樹が行われました。

樹種は勿入ザクをはじめ、勿入・ガク・杓井・マツツ など37種類の木が330本植えられました。

これらの木が大きく育ち、この美しい大鹿村にふさわしい緑地公園となることでしょう。



専門家による植樹指導



植樹する竹内小渋川砂防出張所長

「忘れまじ三六災害」

5月21日(土)駒ヶ根市文化会館において、シンポジウム『忘れまじ三六災害』が開催されました。このシンポジウムは、様々な災害実態を再検証し災害経験者の体験談から、災害の記憶の伝承の必要性、地域防災力の向上、「自助・共助・公助」による防災のあり方を議論し、情報共有することを目的として行われました。



多くの方の参加のもと、当時の災害データによる講演や体験発表、また各機関における災害への取り組み、防災力向上を目指しての意見討論会などが行われました。

大鹿村の被害を語る 中川 豊さん (写真下)



杉本駒ヶ根市長による開会の挨拶 (写真上)



意見討論を交わす 草野天竜川上流河川事務所長 (写真左)

三六災現地見学会



～三六災害を語るリレー座談会～

5月22日(日)に、松川町福与子ども育成会の方たちによる、「三六災現地見学会」が行われました。

見学会では小渋ダムを見学したり、小渋川砂防出張所にて砂防ダムのはたらきや、地すべり発生メカニズムについて説明を受けました。また大西公園を見学した後、三六災害を語るリレー座談会に参加し、災害経験者の方々から当時の災害の様子を聞くことが出来ました。



職場体験

去る5月18日(水)に、駒ヶ根市の赤穂中学校2年生が「職場体験」で小渋川砂防出張所を訪れました。日頃から関心のあった「砂防工事」について説明を受けた後、実際に施工している現場や完成している砂防堰堤を見学しました。大西公園では、過去の災害や砂防工事の重要性の説明を受け、更に関心が高まったようでした。



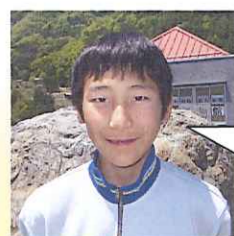
小渋川砂防出張所にて

入谷F17ロック工事現場にて

大西公園にて

上蔵堰堤にて

今回参加した中学生



赤穂中学2年 田中慎吾 君

課題研究で「砂防」について調べてから関心をもつようになりました。